

スーパー



をみつけた。

エイゾウ

目次

スーペリアーをみつけた。

エイゾウ

はじめに

サクネンあきにかきあげ、いまやとヘンシユウにはいった。それもイッケン、ニケンほかのしごとをしていたからだが、データになるとケンサクしやすいというメリットがある。ゴゾンジのかたもおられようが、わたしのズイヒツは、テーマごとにまとまっていない。だから、あるテーマのギロンのすすみぐあいは、ケンサクによってハイクするのがもっともはやいホウホウである。ダイジなテーマについては、おぼえているつもりだが、それでもふりかえることがある。そういうイミでゲンダイブンメイにおセワになっている。

もうさくらがさきはじめ、まもなくマンカイになるという。そうやってダンダンとしをかさねていく。「わたし」もそうだが、エル（ウンドウ）はつづいていく。そして、そのエルをつづけるためにも、ブッシツがサイリヨウされればいとおもう。その「リサイクル」がいまのわたしのおおきなテーマである。

ニセンジュウキュウネン サンガツ ニジュウハチニチ

イチ

ケイザイのことをはかるのに、「コクナイソウセイサン」というスウジをつかったりする。それはシジョウでのうりあげなどのスウジをもとにケイサンされるのだろう。そういうスウジをもっていなければ、ケイサンできない。ギョウセイキカンだから、そういうケイサンができるのだろう。しかし、イッパンには、そのもとデータがしめされないために、まちがったジョウホウでも、まかりとおるかもしれない。

わたしは、ケイザイのことは、ドウロをはしるくるまをカンサツしてはかればよいとおもっている（『むしのツゴウニンゲンのツゴウ』[イカ、『む』] ヒャクジュウイチ、『む』ヒャクハチ、『アルカラカンガエル』[イカ、『ア』] ニヒャクサンジュウイチ、『ア』ニヒャクニジュウゴ）。あそびではしるくるまもあるが、にもつをのせたカモツシャがはしているのもジジツである。さすがに、そのなかになにをつんでいるかまではみえないが、それらがはこばれるということは、ジュンスイなケイザイカツドウである。ヘイキンテキなカモツのねだんをケイサンすれば、あとはカモツシャがどうはしるかで、ケ

イザイのカンサツができる。

はしるかずがおおければ、ケイキはいいだろうし、すくなければ、ケイキはわるい。それをジンコウエイセイからカンサツすれば、ケイザイジョウタイがはかれるとおもうのである。しかし、それをやっているとはあまりきかない。シャカイガクでも、ブンケンケンキュウとジッチケンキュウがあるが、ブンケンケンキュウのホウがさかんなのかもしれない。しかしながら、ジッチケンキュウのホウがおもしろいとおもうのである。

二

「ガマン」ということばがある。サイキンはあまりきかれなくなったかもしれない。わたしのちいさいころは、おやじに、なにかたべようとしたところ、バンゴハンまで「ガマン」しろといわれた。しかし、わたしは、そのガマンがにがてだった。わたしのトウジのニンシキでは、ガマンするというのは、なにかをする、「もとめる」ことをやめる。ということだった。

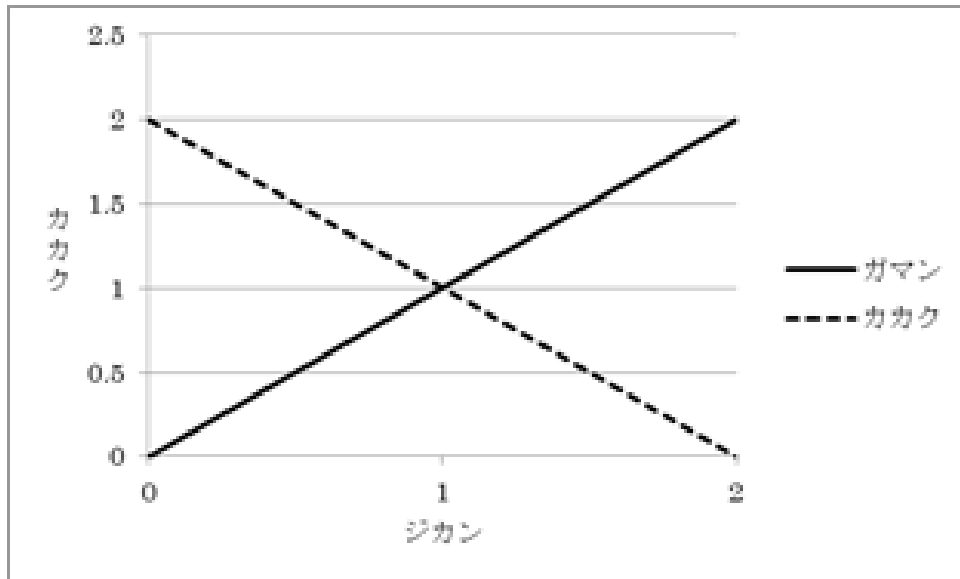
しかし、サイキンになっておもうのは、「ガマン」の「マン」というジがしめすように、なにかをおくらせることではないかということだ。つまり、「ガッキをかうのをガマンする。」というときには、「ガッキをかうのをやめる。」のではなくて、もっとチョウキテキに、「かう」ということだ。たとえば、イチネンとかゴネンのながさでだ。

そうやって、ゆっくりかうとどうなるか。うりては、そのブンだけうりづらくなるから、やすくしたりするかもしれない。そうすると、ガマンしたブンだけやすくかえるかもしれない。しかし、みんながかうしなものもあるので、たとえばショクリョウなど、ガマンすればやすくかえるとはかぎらない。うりきれてしまうこともある。

そうやって、ガマンすることを「デフレケイザイ（ゲンインについては、セッチョ『オンガクイチエンのジダイ』[イカ、『オ』]をサンショウ。●『オ』ヒャクサンジュウゴ)」というかもしれないが、それはまたベツのモンダイのようなきがする。デフレはおかねのながれでセツメイできるからだ。だから、「ガマンケイザイ」とよぶことにする。

そのガマンをところと、うりてはやすくする。うれなければこまるメンがあるからだ。そうやってかんがえると、カカクというのは、かいてからのジカンテキキヨリできまるようなきがする（ズイチ）。つまり、かいてからのジカンテキキヨリがみじかければ、たとえば、あしたとか、たかくてもかうだろうし、もっとさきだと、やすくしないとかわれない。だから、ショウヒアドバイザーみたいなひとがいれば、「あれはおかいどくです。」とか、「そのショウヒンはジュウネンゴにかうようにしましょう。」とかいえそうなのである。

ズイチ



z5-01.png

サン

「まとめがいをするとおとくだ。」のようにひとはいう。たしかに、イッコではなくて、イチケースかってしまったホウがやすかったりする。つくるホウも、まとめてかってくれたホウがやすくうれるというのがある。ジムテキなコストがやすくできるからだ。リョウシュウシヨをジュウマイかくより、イチマイですめば、そのブンジカンをほかのことにつかえる。やはりつくるホウとしては、それをイシキせざるをえないかもしれない。それなら、「レイゾウコゴジュウネンブン」とかうっていてもよさそうだが、あまりそういうのはなしはきかない。さすがにいつこわれるかは、ヘイキンチはケイサンできても、コベツテキなそれまではケイサンできないのであろう。そういうわけだから、まとめうりでヒヨウをサクゲンしようとおもうのである。イミもなくヨンサツのホンをもとめたらうれるであろうか。ニホンでは、うすいホンがはやっているが、そういうやりかたのホウがうれるのではとおもう。

よん

むくどりがわたしのヘヤのとぶくろにシガツはじめから、すをつくりはじめて、そろそろたまごをうんだとおもわれる。すをつくっているときは、かれくさをくわえていたから、なかなかだったが、サイキンまたなくようになったからである。たまごにはなしかけているのかもしれない。

ほかのとりにみつかりにくいところとはいえ、シンパイのようだ。しょっちゅうたずねてくる。よるはよるでイッショにやすんでいるのか、あるとき、わたしがテツヤでしごとをしていると、むくどりがねぼけたようにとぶくろにぶつかっていた。わたしがシィディをならしてうるさかったのだろう（ショウオンリョウだったが。）。だから、シィディをならすのをとめた。

とりとセイカツしていると、そういうきくばりもヒツヨウかもしれない。ニンゲンもデントウがなかったら、よるはすぐにねてしまうだろう。しかしながら、わたしはそういうゲンダイテキなセイカツをしている。

ゴ

ニジュッセイキは「マスメディア」がはやった。ここでの「マスメディア」とは、「ドクシャ」、「シチョウシャ」スウのおおいジョウホウバイタイのことである。テレビやシンブン、ラジオなどは、ドクシャ、シチョウシャがイッセンマンニンをこえることがある。そういうマスメディアである。

しかし、ハチジュウネンダイからのコセイカのシンテンにより、ニホンジンは、かならずしもネンマツのうたばんぐみをみなくなったし、シンブンをよまないわかいひとふえただろう。かわりにいまでは、ドウガトウコウサイトをみたり、オンガクききホウダイサービスをきいていたりする。

それらは、キゾンのテレビ、シンブンなどからすれば、チョウセンシャである。まえにもかいたが、テレビのひとりイチジカンあたりのヒョウはゴエンテイドだが、オンガクききホウダイのサービスは、ひとりイチジカンあたりヤクイチエンである（●『オ』ヒャクサンジュウハチ）。ドウガトウコウサイトもそのテイドだろう。テレビはコウコクでまかなわれているのだけれども、もっとやすいイチジカンイチエンのホウにひとのカーソル（イシキのむき）があつまることはヨウイにソウゾウできる。

だから、そのチョウセンシャのエイキョウで、キゾンのおおてバイタイは、セイサクヒをけずり、うりあげをおとしているときく。シィディもホンもまえよりうれなくなったという。それはそうだ。シィディはかつてイチマイサンゼンエンだったが、ききホウダイでイチジカンイチエン。どっちがおとくかはタクサンのオンガクをきくひとならコウシャだろう。

ホンやザッシもよみホウダイがふえつつある。エイガやアニメもそうだ。ひとりイチジカンあたりイチエンというのが、チョウセンシャのチョウセンだから、チョウセンシャ

がこけないかぎり、ほかのジョウホウもそのカカクにちかづくだろう。たかくねだんをセッテイすればうれなくなるだけだ。だから、コウコクもひとりイチジカンあたりイチエンが、トウメンのスタンダードとケイサンできる。

つまり、ヒャクマンニンにシチョウしてもらえるジョウホウなら、ヒャクマンエンうりあげられるということだ。イッセンマンニンならイッセンマンエン。つまり、イチダウンロードあたりイチエンということだ。そのチョウセンシャのキジュンにテレビキョクやほかのジョウホウバイタイはあわせきれていないから、しばらくは、キゾンのおおてバイタイとつきあっていれば、ひとりイチジカンあたりサンエンとかのねだんで、サクヒンをつかってもらえることもあるだろう。

しかし、それはながつづきしないだろう。そういうスタンダードにあわせるジョウホウバイタイがふえれば、それぞれがドクシャ、シチョウシャをかかえるまるでザッシのようなミディアムのジダイがくるかもしれない（マルチメディアとサイキンはいわなくなったが）。テレビというのはキョウリョクなデンパだが、そのブンコストもかかるだろう。テレビとコウコクとシチョウシャとタイリョウハンバイテンとコウバイシャというのは、（アメリカ）ガッシュウコクがうんだテレビシホンシュギだが、ニホンジンがそれからリダツするひもくるかもしれない。

ゴヒャクマンニンしかみないテレビバングミなら、ゴヒャクマンエンでウンヨウするようだからだ。それではやっていけないだろう。そういうかんじでブンサンがたのミディアムがテイチャクするかもしれない。

ロク

シィディがうれなくなったジダイ（かつて、わたしはシィディのジッセイカカクをケイサンした。そのカカクは、ニヒャクジュウエンほど。●『よろこぶゲンシジン』（イカ、『よ』）ハチジュウキュウ）のオンガクアーティストはショーをやってかせぐのがいいというはなしをきく。

しかし、それにもゲンドがあるとおもう。ショーをやってかせぐまではよいが、そのショーのエイゾウがキロクとして、ドウガトウコウサイトなどにコウカイされてしまうからだ。そうすると、ショーのエイゾウがふえ、やがて、そのゼンプのカカクがゲラクしてしまう。データの カカクゲラクというわけである。

そうすると、そのエイゾウから、コウコクシュウニュウをえていたところ、それがへってしまうことになる。それでもすきなひとはささえるだろう。しかし、アイコウシャがふえなければ、むずかしいとなる。

ショーもショーでニホンではえらくたかい（ななセンエンなど）から、かねのあるアイコウシャしかあつまらない。オンガクがイチジカンイチエンのジダイ（●『オ』ヒャクサンジュウハチ）に、イチジカンハンでななセンエンじゃ、フツウのひとはどちらをえらぶかとなる。

そのプレミアムショーがどこまでつづくかは、キョウミぶかいが、ポップスもキゾクのためのクラシックになってしまったかもしれない。

なな

わたしはチュウガクセイのころからヘンサチとつきあうようになった。たかがヘイキンチからのキヨリをはかるスウジだが、それによって、シンロがサユウされるのはなんとなくわかった。ただカクリツテキにアンテイしたシンロをえらべるということだが。どこのコウコウが、はいるのがむずかしいのかなどは、まとめられたガッコウアンナイをみているうちにわかった。

それでわたしもがんばればよかったかもしれないが、ザンネンながら、キョクをつくったり、バンドカツドウをしたりするのにキョウミがあった。おまけにテレビゲームがはやったセダイだ。それからもしばらくゲームをやりつづけた。コウコウはいかなくなりましたが、オンガクやゲームはやめなかった。オンガクをつくっていたが、ゲームもつくろうとおもったことがある。キカイがそろわずジッサイにはつくらなかったが。

しかし、オンガクのみちはきびしい。トクにいまはイチダウンロードあたりイチエンの(ムリヨウのものもコウリヨすともっとひくいだろう。)ジダイだ(●『オ』ヒャクサンジュウハチ)。せめてネンカンヒャクマンダウンロードされなければセイカツできない。「だから、アルバイトをするんだ。」というかもしれないが、ガッキをかって、コンピューターをかってとやっていたら、アルバイトでかせいだおかねなど、すっとなでしまうだろう。

わたしは、オンガクのためにアルバイトはあまりしなかったが、ダイガクに行くためにしたことがある。シュウいつかはたらいても、ダイガクのやすみキカンには、もうひとつアルバイトをしても、ガクヒでほとんどきえていった。ダイガクもかねのかかるゲームかもしれない。

しかし、いいガッコウにはいり、いいセイセキならば、いいキギョウにつとめられるというわさみみたいなものがあった。ただ、わたしは、そのさきのシンロより、ダイガクでは、そのゲームジタイがすきなってしまった。いまかんがえれば、そういうゲームはジブンのヘヤでやればいとおもう。ダイガクインにもいきたいとおもった。しかし、そんなにかせぎがよくなかったのでいかなかった。ショウガクキンをリヨウしても、かえせるかわからない。こういうガクセイもいた。

しかし、よかったのは、ジブンではたらいて、おかねをだしてガッコウにいったことだ。それによって、ジブンがどのくらいできるのかとわかる。もっとしごとができるひとはもっとかせいでいだろうし、もっとかせいでいないひともいたかもしれない。ガクギョウのヘンサチよりも、ジブンのロウドウシジョウにおけるチンギカカクのホウが、よりシャカイテキなシヒョウだとおもう。

キセイがあって、ジキユウゴヒャクエンはダメとかがあるが、あなたのジキユウはななヒャクエンですとかチュウガクセイのときにしめされていればよかったかもしれない。ガッコウでガクギョウをがんばれば、ジキユウはあがっただろうか。ブンケイのばあい、そうもいえないそうなのである。ガクギョウウンヌンよりサギョウのはやさとかニンゲンセイがダイジだったかもしれない。

オンガク、ゲーム、ガッコウのつぎのわたしのキョウミはホンだ。ジュウネンほどまえから、ホンをタクサンよむようになり、いまではホンをかけるようになった。オンガクはケイサンしてみても（さきのような）、むずかしいとわかった。ゲームもつくるキザイがない。ホンはつくっているがどうだろう。ホンもケイサンすればむずかしいかもしれない。イチジカンイチエンだからジュウジカンでよめるホンだったら、ジュウマンダウンロードされなければセイカツできない。いまのところジュウマンダウンロードにはとどかない。

こうやって、ゲンジツテキなスウジでしごとをえらんでいくといいとおもう。あかじをだしてつづけるのもいいだろう。そういうシジョウのドウコウをみてのケイカクだと、イッサクをつくるのにかけられる（とおもわれる）ヨサンがきまってくる。わたしがシィディをつくるのにかけられるヨサンは、コーヒージュッパイブンほどである。

ケイサンするとそういうことがわかる。おおもものアーティストだって、ゴヒャクマンエンテイドしかかけられないだろう。それをまあうまくやればケツカができる。それだけのなしたとおもう。

ハチ

コウコウ、ダイガクをでて、シュウシヨクせずに、まわりにガクモンのことをセツメイするひとがいたとする。そのひとはガクモンのセンキョウシだ。ゴジブンであたらしいハッケンをし、ドクジのガクセツをもっているならいいかもしれない。そうでないなら、だれかがかんがえたキゾンのガクセツをひろめているにすぎない。オンガクではそういうソウチを「リバーブ」という。

オンガクではそれもダイジだが、シャカイではそれでかせげるわけではない。ショセンだれかがかんがえたことをまねしているだけだからだ。ガッコウのキョウシとか、ジュクのコウシでもしたホウがいいだろう。ダイガクインについてケンキュウするのもいいかもしれない。ダイガクインでうまくふるまえば、ダイガクのコウシになるみちがある。うまくやれば、キョウジュにもなれるだろう。

ダイガクのキョウジュになりたければ、ハクシゴウをもっていたホウがいいだろう。それがないと、キョウジュにはなりづらだろう。つまり、「ダイガクイン」は、ダイガクのコウシとしてうまくやるためのドウグなのである。わたしもいきたいとおもったが、おかねがなくてやめた。ベツにダイガクのコウシになりたかったわけではない。チシキヨクからそうかんがえてしまった。あぶなくガクモンのセンキョウシになるころだった。ダイガクインはそんなところだとおもうが、フツウのダイガクはどうだろう。ダイガクはサラリーマンとしてシュッセするためのドウグであろう。つまり、ショウシンのためのドウグということだ。シュッセするのがすきなひともあるし、ゲンバがすきなひともある。コッカコウムインで、ジョウキュウシヨクにつくか、カキュウシヨクにつくかのちがいがみたいなものである。ゲンバですつとやりたいなら、チュウソツでも、コウソツでもいいだろう。

わたしはコウコウよりオンガクをえらんでしまったので、いまでもオンガクをつくった

りしている。しかし、そのむずかしさもリカイしつつある。ひとことでいえばタンカがひくいのだ。わたしのおやがダイガク、ダイガクといていたので、センモンガッコウというセンタクシもしらなかつた。

たしかにシュッセできたホウがいいかもしれない。しかし、センモンガッコウをでて、ゲンバではたらいしているというはなしをきくと、いいなあとおもったりする。シュッセがいいとはかぎらないとおもう。

キュウ

オンガクをひとりイチジカンイチエンでたのしめるはなしをした（●『オ』ヒャクサンジュウハチ）。イチエンだと、そううりあげはのびないかもしれないが、ひとつかんがえようがある。それは、「どこで」うるかである。

あるトシにもイットウチはあるし、ショウテンのなかにもイットウチはある（とされる。）。イットウチにおけば（おとずれるひとがおおい。）、めにつくカイスウがおおいからうれるだろう。しかし、サントウチとなると、あまりキャクのためにつかない。だからイットウチをめぐるキョウソウがおこるのではないかといえそうなのである。

どこかのデンシサイトのはじめのページにそれがショウカイされていれば、やはりつよいだろう。そういうスペースをめぐるおかねがうごきそうなきがする。ひとつは、タクサンのページのなかからの「コウゾウテキ」イットウチだろうし、もうひとつは、ページとページのイドウによるイットウチ「みちのり」だろう。

ジュウ

わたしはしばらくしたじき（ノートのしたにはさむあれである。）をつかっていたいなかったが、あれをつかうと、ペンがスムーズにうごくことがわかった。ペンリなドウグである。オフィスのつくえにも、むかしはビニールのマットがしかれていたとおもう。いまはパソコンがシュタイだろうから、あまりつかわれていないだろうが、ペンリなドウグである。

ジュウイチ

オンガクがひとりイチジカンあたりイチエンだと（●『オ』ヒャクサンジュウハチ）、ヒャクマンダウンロードされても、ヒャクマンエンにしかならない。そうすると、セイサクヒも、ヒャクマンエンイナイでやらなければならない。センダウンロードしかされないアマチュアミュージシャンのばあいは、センエンのヨサンでとなる。コーヒーをジュッパイのんだらおわりだ。そんなかんじじゃ、なかなかガッキはかえないだろうが、そういうヨサンをしっかりとつくりつられたものもある。ヒップホップというオンガクジャ

ンルだ（ガッキはマイクとサンプラーぐらいしかつかわない。）。

ニホンでもキュウジュウネンダイコウハンにはやったが、そういうセイシンはダイジだともう。ニホンではギターイッポンのひきかたりもある。そういうやりかたがある。エレキギターやエレキケイのガッキをつかうバンドはゆたかなくにでうまれた。ゆたかだからエレキギターなのだ。ゆたかでないなら、ひきかたりでいいのでは。

ジュウニ

あるセイヒンがうれると、まあうれそうなかぎり、そのセイヒンはまたつくられる。あるサービスもまたリヨウされておかねがテイキョウシャにはいりそうだと、またおなじサービスはつづく。

ダイタイのセイヒンにはこういうことが、いえるとおもうが、シュウキョウはどうだろう。シュウキョウがスイタイしたともいわれるし、ハツもうでのコンザツはかわっていないともいえるとおもう。それがテイキョウシャ、ショウヒシャソウホウのリエキになれば、セイヒンドウヨウにつづくとおもわれる。イチジはやったレイカンショウホウのようでは、そうはつづかないだろう。

では、どのようにソウホウのリエキをもたらしているのだろう。それはしあわせになれるというカンカクなのではないか。つまり、「しあわせ（というカンカク）」をツウカのようにまわすわけである。ジッサイのツウカのばあいもあるだろう。つまり、「しあわせ」をまわしあって「しあわせ」というわけである。

タニンがしあわせでも、しあわせということもあるからだ。シュウキョウによってそれぞれカイリツがある。そのひとにあったシュウキョウをえらぶといいかもしれない。カイリツがあわないのではクロウするだろう。「しあわせ」をそのほかのシュダンでやりとりできるのなら、シュウキョウはいらないのかもしれない。

あまりニホンジンはシュウキョウでどうこうというひとはすくないかもしれない。ただ、シュウキョウがつづくということは。うまくやっているということだ。

ジュウサン

あるひとがしごとをしないと、「あのひとはたるんでいる。」といわれる。ギャクに、セイリョクテキにしごとにとりくんでいると、「あのひとは、はりきっている。」といわれる。ずっと、はりきれたらいいかもしれないが、はりきるということばのように、いつかきれてしまうかもしれない。

わたしは、むかし、はりきるときは、はりきって、やすみはねているというセイカツをしていた。とっととやって、ねるというイソップドウワのうさぎのようなかんじだった。しかし、サイキンはかめがたである。タブンひとよりサギョウがおそいとおもう。エドバクフをはじめたとくがわいやすコウも、「ひとのイッショウはおもにをにおいて、とおきみちをいくがごとし。」といいのこしている。それでときどきいやになることもある。

しかし、あまりにすきなようにやると、やっぱり、ねてしまったりする。イソップだとかめにまけてしまう。わたしは、こどものころからジユウにいってきたホウだが、あまりにジユウだとタイクツしたり、ねてしまったりする。だから、タシヨウフジユウがあったホウがひとはいきられるのではないかとおもう。

そうおもっていたところ、いえやすコウのつぎのことばをした。いわく、「フジユウをつねとおもえばフソクなし。」やっぱりすごいひとはすごいとおもうのである。わすれないように、かけじくをかおうかとおもったが、それはタツピツでかかれていてよめない。ひとはかならずしも、やすきにながれないホウがいいのだろう。「わかいときのクロウはかってでもしろ。」ともいわれた（だれのことばかわからないが。）。ニンゲンはそんなかんじでいいのではとおもう。

ジユウよん

ニホンはカコウボウエキでかせぐくにだとチュウガクセイのときにおそわった。いまでもコウギョウセイヒンをユシュツしてかせいでいる。もっといって、コウジョウをカイガイにうつしてかせいでもいる。

サイキンもそうおしえられているかは、わからないが、「ジョウホウカ」しているともおしえられた。タンジュンにいうと、コンピューターがふえることをいったのだろう。また、それをつかってショウパイができることだろう。コンピューターツウハンはいまではめずらしくないが、トウジはそんなことをやっているひとはいなかった。

さて、コウギョウセイヒンはテッコウセキなどのゲンリョウをユニウしてつくられるが、コンピューターツウハンはなにでつくられるのか。コンピューターホンは、やはりキンゾクとプラスチックなどでできている。しかし、ジョウホウはなにでできているか。デンキシングウだから、やっぱりテツかもしれないが、そのトチュウでキゴウをつかう。スウジとアルファベットである。だとすると、スウジやアルファベットがうられているわけだから、アラビアスウジをハツメイしたアラブジンやアルファベットをハツメイしたヨーロッパのひともうかりそうである。

コンピューターをつくったガッシュウコクジンはやはり、テツやセキユやスウジ、アルファベットをユニウしてカコウボウエキをしている。ニホンジンもコンピューターをつくれるらしいが、ホンタイイガイはむずかしいらしい。アラビアスウジとアルファベットをそれほどユニウしていないからかもしれない。それならそのセイヒンでのニホンジンのかせぎはすくないだろう。

しかもサイキンはニホンのコンピューターセイゾウメーカーがそのセイゾウからテツタイすることがおおくになっている。「ジョウホウカ」のおわりがみえないにもかかわらずである。そうすると、「ジョウホウカ」ブンヤのニホンのハイボクはヒッシである。ガッシュウコクのジダイとなる。モチロン、そのブヒンをキョウキュウしているところもつよいだろう。

チュウゴクはどうなのかというと、やはり、ニホンドウヨウにコンピューターホンタイをつくっているにすぎない。だったらジカンのモンダイだ。ただニホンジンはシィディ

(よみとりソウチ) などのブヒンをつくった。だから、そうやってなにかブヒンをキョウキョウすればいいかもしれない。

ジュウゴ

わたしがこどものころは、おかねをつかってセイカツしていた。そんなタイソウなものをかっただけではない。ハンドウタイセイヒン、いいかえるとテレビゲームのカートリッジばかりかっていた (●『む』ヒャクハチジュウサン)。イッコゴセンエンほどしたから、そんなにかえるわけではない。それから、シィディラジカセやガッキをかうようになった。

そういうイミではしあわせだった。いまでもおかねがあったら、そういうものをかうかもしれない。そうやってかえるというのはゆたかだが、おかねがあるイジョウにはかえない。つまり、おかねとはジュウのショウケンである。それがあるかぎり、ジュウにできる。なければ、フジュウだからダイジにしなければならない。そういうわけでガッキをかうのをひかえている。

ジュウロク

とりがわたしのヘヤのそとにすをつくっていた (●よん、『オ』ヒャクロクジュウ)。そろそろひながかえってもおかしくないジキなので、ヨウスをみてみた。ところが、たまごがみあたらない。どうも、わかいつがいのようだったから、まだなのかもしれない。コンカイはひなをみれなそうだ。やっぱり、とりにもツゴウがあるのだろう。ただ、たびたびうちにあそびにきている。

ジュウシチ

まえに『アルカラカンガエル』といった (●『ア』ヒャクロクジュウニ)。あるくとフウケイがかわるから、うけるシゲキもかわってくる。だから、あるいてベツのケシキをみたブンのかんがえがでてくる。あるかなかったら、かんがえないようなことがあるだろう。だから、『アルカラカンガエル』なのである。

ただ、いつもおなじところをあるいていると、なれてくる。そうすると、あまりかんがえないかもしれない。それなら、ベツのみちをあるけばいい。トクにフダンのかんがえにフマンをもっているなら、リョコウをすればいいだろう。まえにジブンのショウライをイチジシキでヨソクしたはなしをした (●『オ』ニジュウハチ)。セツメイヘンスウがひとつのシキである。

レイをあげれば、ワイ イコール エー エックス マイナスビーで、ワイがチョキンのリョウ。エーがしごとのジキュウ。エックスがキンムジカン。ビーがセイカツヒ。といった

かんじで、チョコキンのリョウをヨソクする。

なぜ、そんなことをしたかという、ガッコウのガクヒをはらっていたからだ。だから、おかねをためるヒツヨウがあった。それでこのてのケイサンをしていたのだ。このシキでたしかにヨソクできるが、ヨソクどおりにいくかはベツモンダイだ。

これはおもにジブンのことしかかんがえていない。しごとには、ドウリョウもいるし、おキヤクさんもいる。ドウリョウがゾウインされれば、わたしのキンムジカンがへるだろう。おキヤクさんがへっても、わたしのキュウリョウがへる。だから、エックス、ワイのほかに、ブイ（ドウリョウのでき）、ダブリュ（おキヤクさんのかず）といったヘンスウをくわえてケイサンしたホウがよりゲンジツテキだ。まえにそうシテキした。

もし、セカイイチユウシユウなビジネスマンがいたとしよう。しかし、そのひとがしあわせかはわからない。そのひとのドリョクだけでは、かれがかせげるのかわからないのだ。つまり、かれにおキヤクさんがいなかったら、ほとんどシツギョウシャとおなじだろう。だから、そのひとがユウシユウであるのはいいけれども、ドウリョウとうまくやったり、おキヤクさんによるこぼれたりすることがダイジなのだ。タブンかせげることがダイジだろうから。

ジュウハチ

コトシのはるはわりとあめがふっている。みずブソクではないようなきがしていた（●『よ』ヒヤクイチ）。ジッサイにかわをみにいったら、まあまあのスイイだった。コトシはダイジョウブなのでないかとおもう。

ジュウキュウ

カコをみるボウエンキョウのはなしをした（●『オ』ゴ）。イチネンまえのひかりをみれば、イチネンまえがみえるというわけだ。しかしそれなら、おおきなセツピをとのえて、カコをみなくてもいいかもしれない。ビデオカメラにキロクすればいいからだ。

ただ、それでイチネンまえをみたところで、ジカンリョコウをしたきにはならない。それなら、カコのエイゾウとコミュニケーションすればいいかもしれない。たとえば、イチネンまえのエイゾウに、「あしたははれるか。」ときいて、エイゾウのひとが、「はれますよ。」とこたえる。このうけこたえを、エーアイをつかってやれば、ジカンリョコウしたきになるかもしれない。それで、「いや、あしたはあめふるんだよね。キロクにそうある。」などとはなせばよい。カソウジカンリョコウであるが、おもしろいかもしれない。

ニジュウ

ジカン イコール ゼツタイジカン わるジカンシツリョウのはなしをした（●『オ』ハチ）。

カンタンにいうと、ジカンシツリョウ（いろいろなほしのインリョク [ウズマキリョク]）のエイキョウをのぞけば、ゼツタイジカンがかぞえられるというはなしだ。

そして、ジカン イコール エネルギー わるシツリョウ（ジカンをロコモティブ [コウゾクキョリ] とよみかえれば、わかりやすい。●『よ』サンジュウニ）だから、いくつかのコウセイにかこまれて、インリョクがつりあって、そのチュウシンにあるなにかが、まったくうごかないとなると、エネルギーイコール レイ ゆえに ジカン イコールレイになる。スウシキジョウは、ジカンがながれないことになる。これをデッドロックといおう。ジッサイのウチュウにこういうデッドロックがあるかはわからないが、このデッドロックはウチュウのケンキュウにつかえそうなのである。

このデッドロックのチュウシンにコタイがあるとす。コタイはインリョクがつりあいうごかないが、やがて、インリョクにひかれてボウチョウするかもしれない。ベツのいかたをすると、オンドがあがるわけだ。それがつづくと、コンドはキタイになる。そのキタイはデッドロックのまわりのコウセイにひきつけられ、どうかしてしまうだろう。このデッドロックのチュウシンにあるのをウチュウゼンタイとカテイすれば、ウチュウはやがてウチュウのそとにいつてしまうということになる。これが、「ウチュウがボウチョウする」リユウなのでないか。そのゴ、キタイがひやされて、さらにコタイになつてもとのイチにもどれば、ウチュウのサイセイサンはカノウだろうが、どうもサイセイサンができることは、わたしはまだカクニンしていない。

ニジュウイチ

ニホンのジュウタクチにはデンシンばしらとデンセンがあみのめのようにハイチされている。そういうもの（デンキをおくるデンセン）をドウロのしたにうめてしまえというこえもある。それならすっきりするかもしれない。しかし、あったらあったでとりがデンセンにとまるから、カンサツするにはわるくないとおもう。わたしはとりをみたい。デンチュウをなくして、デンセンをチチュウにうめたチイキもしているが、そういうところにとりがあるきはしない（あまりみたことがない）。そういうわけでゲンジョウイジもいいのではとおもう。

ニジュウニ

あまりにかんがえがジブンのレベルからはなれていると（わたしもそういうところがあるかもしれない）、あれをしたホウがいいとか、○○は、すればいいんだよというシテキをすることがある。とりあえず、「レベルずれ」とよんでおく。かんがえるのはケツコウだが、それをおしつけられてもこまるし、おしつけてもメイワクだろう。そういうレベルずれについてのハイリョがあったからか、「ハツゲンケン」ということばもある。「ハツゲンケン」がないのなら、ゴエンリョくださいというわけだ。レベルずれをかんじたらどうしたらよいか。ジブンでやれというのがひとつだろう。もっともケツコウなレ

ベルズれだと、ジブンでできないだろう。

あるビジュツカンにおいてあるえをほかのものにかえたホウがいいとおもったら、「ああしろ。」とか「ああしたホウがいい。」ではなくて、ジブンでかわりのえをかってくるといい。そのビジュツカンにかざらせてもらえるかはわからないが、ジブンのビジュツカンにはかざれるだろう。おなじく、どこかのくにのミサイルがきになるのならば、「かたづけてくれ。」ではなくて、「かいとりましょう。」にするといいかもしれない。もののモンダイならとりひきはカノウだ。そのあとジブンでかたづければいいだろう。それでまたあるくにつくるようだったら、コウジョウをバイシュウすればいい。だれかになにかをさせるといふばあい、コヨウ、ヒコヨウカンケイなどもあるが、そういうカンケイをきずきたいのなら、おかねをだせばいいだろう。

ニジュウサン

ホンコンからマカオにはスイチュウヨクセンでわりとすぐである。そのうみか、かわをみると、いまいわれていることのリカイのたすけになる。どうなのかというと、かわのみずにつちがまじっているのだ。それでちやいろのかわになり、それがうみへとつづく。もっともこのカンサツはサンジュウネンほどまえにしたものなので、いまゲンザイどうなっているのかわからない。いまいわれていることへのリカイとはどういうことかという、チュウゴクの「リョウド」がナンポウのうみにながれているということだ。だから、そのナンポウにあるしまをチュウゴクのものだ。というときに、まったくコンキョがないわけでない。チュウゴクからながれだしているリョウをしらべれば、セイカクなリョウがわかるだろうが、レイテンレイレイ～なんパーセンセントくらいが、そのしまにながれついているかもしれない。だから、「そのしまはチュウゴクリョウドだ。」というとき、ヒャクパーセントでたらめではないのである。だから、レイカイチをきめるロンソウをしてもしょうがないとおもう。

おなじようにフィリピンからながれだしていたとすれば、「わたしたちのホウがおおい。」「すくない」のモンダイなのだ。そのわりあいで、シュウヘンのしまをブンカツショウユウするてもあるだろう。ニホンもわりとチュウゴクにちかいところがあるから、もし「リョウド」がながれだしていたら、「わたしたちのリョウドだ。」モンダイがでてくるカノウセイがある。スイセンベンジョのモンダイ（●『オ』ヒャクジュウロク、ヒャクななジュウゴ）もある。「ウンコ」のはなしだ。あまりそのウンコをうけとるようだと、どこかのニのまいになりかねない。テイチョウにあつかうヒツヨウがあるだろう。

ニジュウよん

シュウニウのカクサがモンダイになったりする。かせいでいるひとはかせいでいるし、あまりかせげないひとは、かせいでいないというぐあいだ。だから、サイテイチンギンをあげたり、「ドウイツロウドウ、ドウイツチンギン」といってみたりする。そういうことは、ダイタイサハよりのセイジカがいうだろう。いまではシャカイシュギにしろとい

うセイジカはすくなくとおもうが、また、そうしたもののいいがサイネンするカノウセイもある。

ロクジュウネンダイからのガクセイウインドウは、わたしは、ドレイセイのあるシホンシュギより、シャカイシュギのホウがよさそうだからおこったとかんがえている（●『オ』ヒャクゴジュウハチ）。ガッシュウコクのシホンシュギがモデルになるかというはなしである。

トウジはまだコクジンへのサベツがあった。それがやがてカイショウされるとガクセイウインドウはすくなくなつた。ドレイセイのないシホンシュギならいいだろうとガクセイがハンダンしたのだろう。しかし、コンゴひとがヒンコンでうえじぬジレイがでてくると、そうしたウインドウがサイネンするカノウセイがある。ひとがうえじぬシホンシュギより、シャカイシュギのホウがいいだろうというわけだ。

しかし、チキュウキボでみて、いまシャカイシュギのモデルとなるようなくにがない。だからよっぽどベンキョウしないとシャカイシュギのホウがいいとはいえないだろう。シャカイシュギをするであろうニンゲンはよんジュッサイイジョウだからだ。だから、ガクセイはシャカイシュギをめざすのではなくて、ベツのことをいいだすかもしれない。そのシュチョウがもっともらしければ、シジをあつめるかもしれないが、まあよんジュウダイイジョウは、なんかいつているぐらいにしかうけとらないカノウセイもある。たしかにひとがうえじぬシホンシュギはよくないかもしれない。しかし、かわりのタイセイがみえないのではなんともならないであろう。だから、チンあげなのだろう。

ニジュウゴ

エーアイをカツヨウすると、いろいろなヨソクなどがなりたったり、ばあいによっては、カガクテキなハッケンもカノウだったりするだろう。コンピューターネットワークにあふれるデータをカイセキしたり、ホンをカイセキしたりもできるであろう。そういうサギョウは、ニンゲンがやるとものすごくジカンがかかる。だからエーアイにやらせてしまえとかんがえてもフシギではない。

それでデータからショウライテキにはドルがたかくなるというケツロンがえられたとしよう。それでエーアイにカイセキさせたひとが、ドルをかったとする。それはゴウホウといえるのか。くによつとおもうが、チョサクブツとはなにかというと、コウヒョウされるブンショウなどである。たまにサクシャがジユウにつかっているよというこゝろはあるが、フツウはムダンな、コジンテキなりヨウイガイのフクセイはキンじられてゐる。だから、いろいろなチョサクブツをリヨウして、エーアイにカイセキさせたひとが、シテキにリヨウするかぎりでは、イホウとはならない。

そういうわけで、コジンテキにドルをバイバイするわけだから、イホウではないかもしれない。しかし、ドルがニジュッパーセントあがるというジョウホウをひとつたえたばあいは、「シテキ」なりヨウにはならないので、イホウとなる。それじゃエーアイをかって、いいデータがなければつかいものにならないといえるかもしれない。そうだ。エーアイはケイサンキのようなもので、ジッサイのスウチがなければ、ケイサンはでき

ない。ただ、コジンテキなりヨウについていえば、リエキがあるかもしれない。それをたかいとみるか、やすいとみるかであろう。おおきなフゴウみたいないいかたをするが、そのもとデータがチョサクブツとすれば、そうそうにリヨウできないはずである。そのこのところをチュウイしてみなければならぬ。

ニジュウロク

「ショウシカ」とか、「コウレイカ」は、シャカイコウゾウである。トウケイテキなケンキュウによってみだされたコウゾウだ。トクに「コウレイカ」はいじりづらいコウゾウだ。ひとがすこしずつおいていくというのは、うごかしがたいゲンショウなのである。イッポウ、「ショウシカ」は、まだいじれるヨチがあるとかんがえられているようだ。そのショウコに、こそだてをユウグウするセイサクがある。タンジュンにえば、こどもをひとりつくったら、いくらかあげますというセイサクだ。そのセイサクをジッコウすれば、(おかねにつられて)だれかがこどもをつくるだろうとかんがえているわけだ。しかし、それをやったところで、そうタクサンのこどもがふえたわけではない。にもかかわらず、そういうセイサクをつづけている。そのセイサクをしんじるというのもコウゾウである。おかねをあげれば、こどもがふえるというシンリコウゾウである。そういうコウゾウはほかにもある。キンリをさげれば、おかねをつかうだろうというシンリコウゾウだ。

しかし、そのコウゾウはかならずしもただしくない(シャカイコウゾウとしてはただしくない)。それは、カイガイのキンリのたかところにおかねがイドウすることがあるからである。しかしながら、そういうただしくないコウゾウでも、ただしいとおもわれたり、コウゾウとしてのこったりするコウゾウもある。ばあいによっては、スウジでごまかすこともカノウだ。こどものテイギをヨンジュッサイまでにしてしまえば、ショウシカではないし、としをとるのをニネンにイッカイということにしてしまえば、コウレイカではない。しかし、そうやっでごまかしても、しょうがないとおもう。

さかなのたまごをたべれば、こどもがふえるというようなことをまえにいったが(●『む』ヒャクサンジュイチ)、その「さかなのたまご」をかうホジョもそれがただしいとなれば、セイサクにできる。しかし、あまりそういうはなしはきかない。ただ、さかなが「こダクサン」であろうことは、いえそうなのだ。

ほかにもちいさなうめぼしを「こうむ」となづけてハンバイすればいい。しかし、そういうエンギがムシされているのか、こどもをつくりたくないのかはわからないが、こどもがふえないのではしかたがない。カイカクシャにとっては、そういうこどもがふえないコウゾウをなんとかしなければならぬのだろう。

ニジュウシチ

どうしてニンゲンはギユウニクをたべているのに、うしにならないのだろう。それはイッカイギユウニクをタイナイでブンカイして、ジブンのイデンシがはいったにくに、サイソセイするからであろう。もし、それができなければ、うしニンゲンになるだろう。じゃあ、「ジブン」とはなにかというと、ジブンのイデンシかもしれない。それなら、ホント

ウのコセイはなにかといたら、イデンシやイデンシがいったことだろう。

しかし、イデンシがしゃべるのかわからないし、かならずしもジブンのいいブンがとおるかはわからない。それじゃ「ジブンらしくない。」であろう。そういう「ジブン」をみつけれなかったから、「コセイ」だなんだだったのかもしれない。ジブンのいいブンがとおらないことがあるのは、しかたないから、やっぱりシャカイではジブンらしくないとなる。それをリョウショウしたひとを「シャカイジン」というのかもしれない。「ジブン」とも「シャカイ」ともなかよくすることがダイジだろう。

そういうやくわりをするのが、イシキかもしれない。だから、つまらないギロンをしていてもしょうがないのかもしれない。ひとのためになるギロンが「イシキ」にとって、ただしいギロンなんだろう。ただ、「シャカイ」のほかにも「ジブン」もあるから、そのかぎりではない。

ニジュウハチ

タイリョクがあるとおもいものをもてる。それにムイシキに、タイリョクがあると、おもいものを持ってしまふかもしれない。わたしもわかいときに、オーディオコンポをかった。あわせてニジュッキロぐらいはあるだろうか。タイリョクにはジシンがあったので、おもいとはおもわなかった。そういえば、むかしのテレビもおもい。やっぱりそれもかった。へやにはこぶのにも、そうクロウはしなかった。

しかし、タイリョクのないひとだと、それをおもくかんじるだろう。そういうリウウがあるからか、オーディオコンポもテレビも、かるいものがふえた。それらをはこぶのは、むかしはおとこのしごとだったのだろう。しかし、ジョセイのシャカイシンシュツにともなって、ジョセイもそういったものを、ジユウにかいたいとおもうようになったのであろう。かるくすることがもとめられたといえるかもしれない。

あとおもいものといえば、レイゾウコとセンタクキだろうか。それもかるくすればいいかもしれないが、それだと、ヨウリョウとかキョウドにかかわる。だからむずかしい。パソコンもかるいのがふえてきた。そうやってセイヒンがかるくなるリュウコウがあるだろう。それだけタイリョクのないひとでもくらしやすくなってきている。おもいものをユソウするには、ウンソウやにたのめばいい。そういうベンリなジダイになったかもしれない。

しかし、そんなにかるいガツキがふえていないから、ジョセイミュージシャンはふえないとおもわれる。よんジュッキロあるギターアンプをはこべるたくましいジョセイとはかぎらないのである。

ニジュウキュウ

ものごとをコウテイテキにかんがえることもできる。また、ヒハンテキにかんがえることもできる。イチたすイチはニ。ああそうですか。すばらしいですねとおもえるのなら、ヒハンセイシンはヒツヨウないかもしれない。しかし、ちがう。イチたすイチは、イチとイチじゃないか。ウイスキーとブランデーをたしたら、ウイスキーとブランデーだろ

というかもしれない。そういうこどもは、センセイにきらわれるが、それももっともだともいえる。

そうやって、あえてヒテイすることによって、なにかベツのかんがえにトウタツすることがある。だからヒハンセイシンもダイジかもしれない。そういうのをやしないたかったら、センセイにまなぶといい。ガッコウのセンセイはそんなことをおしえてくれそうにないが（ジュギョウがエンカツにすすまないとこまるからだ。）、さがせばそういうセンセイもいる。そういうひとにならうとヒハンセイシンがやしなわれ、あたらしいかんがえにいきついたりするであろう。ただ、フツウのガッコウでそれをまなぶことはおすすしめない。いくらそのヒハンがただしくても、キョウシにおこられるからだ。わたしもイチジカンセイザさせられた。

サンジュウ

どこかイッテンにネツがあると、まわりのすずしいなにかが、ネツのホウにちかづき、ネツのあるなにかも、すずしいテンのホウにむかい、やがてネツのあるテンとすずしいテンのオンドのヘイキンのオンドにおちつくであろう。だから、その「なにか」に、イドウにあわせて、すずしいホウへのシンコウリョクが、ネツのホウへのインリョクがショウじるといえるだろう。

インリョクをもつブッシツより、シンコウリョクをもつブッシツがかかるければ、シンコウリョクがひくい（インリョクがつよい）といえるだろうし、インリョクをもつブッシツのホウがかかるければ、インリョクがひくい（シンコウリョクがつよい）といえるだろう。タイヨウとそのケイのワクセイは、インリョクとシンコウリョクがわりとつりあっているようである。チキウをなにかのホウホウでひやせば、タイヨウのホウへひっぱりられるだろうし、あっためれば、タイヨウからはなれるであろう。だからチキウがオンダンカすると、イチネンがながくなるのではないか。イチネンがサンビヤクななジュウニチになるかもしれない。しかし、あまりそのことはギロンされない。きになるのは、ヘイジツがふえるか、キュウジツがふえるかであろう。

サンジュウイチ

インリョクをもつということはネツがなければならぬとなる（●ホンチョサンジュウ）。「ビッグバン」のはなしでいえば、ウチュウのチュウシンからネツがそとがわにイドウする。「バクハツ」ならブッシツもそとがわにいくだろう。だから、ウチュウがひろがるとかんがえられている。でも、ネツはそとがわにいくにつれ、ウチュウのチュウシンのオンドとくらべひくくなる。つまりウチュウのそとがわがあたたまるわけだ。ウチュウのそとのオンドがひくければ、ウチュウはそのオンドとのヘイキンまであたたかさがおさえられる。とドウジにウチュウのそとから（あれば）ブッシツがはいってくる（なければオンドはさがらない）。

ウチュウのそとのオンドがたかければ、ウチュウは「ビッグバン」でハッセイしたのではないとおもわれる。ウチュウのそとからのものがはいつてくるからだ。ウチュウのつめたさとブッシツが、あたたかいウチュウのそとがわにあるだけだろう。ウチュウのそとがわにあるブッシツがすくなければ、ウチュウからあたたかさどブッシツがでていくのだろう。それだと、ウチュウはシダイにつめたくなる。ウチュウのおおききテイドにウチュウはつめたくなるし、ブッシツもへつていく。それを「ウチュウはひろがる」というのだろう。そのうち、ニンゲンもすめなくなるテイドにつめたくなるかもしれない。コウセイのちかくにイドウしても、ジカンのモンダイである。そういうイツカイきりのウチュウなのであろうか。だからウチュウのリサイクルをかんがえている。

サンジュウニ

ジカン イコール エネルギー わるシツリョウのはなしをした(●『よ』ニジュウハチ、サンジュウニ)。これだと、エネルギーがレイでも、シツリョウがレイでもジカンはながれないとなる。ジカンでなかったら、イドウがセイリツしないだ。さて、それでは、エネルギーがさきにあるのか、シツリョウがさきにあるのであろうか。ニンゲンがつくったラジコンカーは、この「シツリョウ」にデンチ「エネルギー」をのせたのだろう。レキシをみると、ニンゲン(エネルギー)ができて、シャリン(シツリョウ)ができた。ジンリキシヤというわけである。だからドウブツのケンキュウをすれば、こたえがでるかもしれない。

ニンゲンにとってのエネルギーは、タンスイカブツなどである。それがあれば、かなりいきていられるようだ。タンスイカブツとはなにかというと、ショクブツであらう。ショクブツがさきにあったか、ニンゲンがさきにあったかという、ショクブツがさきにあったといわれる。ニンゲンよりも、ねずみなんかのホウがながいのであろうか。ショクブツができるのにも、ニサンカタンソがヒツヨウであつたらうから、ニサンカタンソがどこにあったかをしらべるといいかもしれない。ニサンカタンソがチキュウにあつたのだろう。チキュウがもえているから、ニサンカタンソはあつたのかもしれない。サンソとタンソがあつたのだろう。

セイブツのキゲンはサンソとタンソであつたようだ。それをチキュウがもつていた。ショクブツとドウブツがなぜえだわかれしたのかというのもキョウミぶかいが、そのはなしはまたにする。なぜチキュウがもえているか。サンソと Netzがあるからだろう。どこかのコウセイからとびひしたのかもしれない。そのコウセイもなにかをもやしているのだろう。サンソがさきなのか、もえるがさきなのか。なにもなければもえないようにおもう。「ビッグバン」といつたつて、ものがなければおこらないだろう。だから「もの(シツリョウ)」がさきにあつたとおもわれる。

ものがあつて、もえるゆえに、ジカンがショウじたと。なぜサンソがもえだしたか。タブンひきのばされたのだとおもう。タンジュンにいつと、タイセキがおおきくなつてコウオンになりハッカしたとおもわれる。わたしがガクセイのときにみたえだと、ウチュウ(サンソ)のジョウゲからアツリヨクがくわわつて、タイセキがおおきくなつたとかんが

えられる（そのえをかいたひとは、そうかんがえたのだろう。）。だから、「ビッグバン」にせよ、もえるちからがそのまえにあったとかんがえるのがただしいだろう。ウチュウ（サンソ）がひろがったからハッカしたともかんがえられるわけだ。そのひろげるちからとはなにか。またかんがえてみたい。ウチュウ（サンソ）をひきのばすちからがあるなら、ウチュウをちぢめるちからもあるかもしれない。それなら、ウチュウもサイリヨウできるのだろう。

サンジュウサン

わたしのヘヤのそとにすをつくったとりが、すでねとまりしていた（●ジュウロク）。たまにねぼけるようで、ガタガタやっている。ニンゲンはデントウがあるのでよでもおきていることができるが、とりは、あさにならないとうごきださない。よるととぶのもキケンなんだろう。たまごをうまないとおもっていたら、センジツひながかえった。オスのすがたがみえないから、イッピキでホントウにそだてられるのかわからなかったが、まあうまくそだっているようだ。ひなのなきごえもおおきくなってきた。あるひは、おやどりがひなをおこし、またベツのひは、ひながおやどりをおこしていた。ひながすだつのがたのしみである。

サンジュウよん

サイキンのニホンジンはホンカクテキなチーズをこのむようになってきたようだ。わたしはホンカクテキなチーズはにがてだ。タイショウ、ショウワのころからの、コウジョウでタイリョウセイサンされる、あじのうすいチーズならたべられるが、ほかはどうもにがてだ。ハチジュウネンダイからのエンだかで、ユニウヒンがやすくかえるようになり、ニホンジンはそれになれたのだろうか。かみをチャイロにそめるのもヘンカだが、あじのこのみがかわるというのもヘンカであろう。「ジミントウタイシツ（ガッシュウコクサン）のたべものもたべるニホンジン。●『ア』ヒャクゴ）」のひとがふえているのかもしれないが、わたしはちょっとついていけない。

サンジュウゴ

よくわたしのコップのなかにむしがはいる。おおいときはサンびきぐらいはいつてスイシしている。きもちいいからプールにはいるカンカクではいつているのでは（●『よ』ヒャクロクジュウニ）とかいたが、サイキンになって、そのリュウがわかった。それは、ケイコウトウのひかりが、コップのスイメンにあたり、ハンシャするからである。むしはそのハンシャしたスイメンをひかりだとおもい、みずにつかってしまうのだろう。そういうむしとりきがつくれそうである。

サンジュウロク

イシキはコジンとシゼン、シャカイのおりあいをつけるためにあるとかいた（●ニジュウなな）。ところで、そのイシキとはなににできているか。タンジュンにいうと、デンキシングウだろう。カガクブッシツといえるかもしれない。だから、あるはなしのトチュウに、なにかベツのデンキシングウをノウにおくりこめば、そのはなしにすりかわっていくかもしれない。しかし、そういったセンノウまがいのやりかたはカンベンしてほしいとおもう。

ところで、ことばは、デンキシングウをあらわすキゴウともいえるだろう。そのキゴウは、くにやチイキによってちがう。そういうのをセイリして、キョウツウゴをつくれればベンリかとおもうが、アンガイつかわれぬようだ。いいジョウホウがあるくにのことばがつよくなるのだろう。むかしはワコンカンサイ、いまはワコンヨウサイか。ニホンジンもがんばらねばとおもう。

サンジュウなな

「かんがえる」とは「カン」をかえることだとかいた（●『む』ヨンジウイチ）。つまり、チョツカンとかジョウシキとされているなにかをヒテイして、ニンシキをかえることである。むかしはベツのいいかたもあったが、サイキンは「かんがえる」ということばがおおくつかわれている。だとすると、カイカクハがおおいはずであるが、アンガイホシュハのホウが、ニンキがあったりする。「カン」をかえるということは、「コウゾウカイカク」である。それをしますとって、やっぱりかえませんか、おまえはうそつきだ。シンヨウできないとなる。それなら、「シソウします。」とでもいっておいたホウがいいだろう。

サンジュウハチ

「デフレ（●ニ）」がだめだといって、セイサクテキにギャクのインフレにしようとしている。「デフレ」はブッカがさがるから、チンギンもさがるとしてケイエンされるが、ホンシツテキには、リエキをだそうとするコウドウがそうさせる（●『オ』ヒャクサンジュウゴ）。シジョウにでまわるおかねがへるからだ。それじゃ、エイリキギョウとコジンのヨキンをキンシしますとはなかなかならない。そういうコンポンテキなモンダイがあるのにもかかわらず、それをホウチして、おかねのカチをさげようとするセイサクをとる。デフレもリエキもチョコキンもシジョウのこえである。ほうっておいてもいいのではないか。

サンジュウキユウ

わりとサイキンは「センタク」をすることがダイジなどという。つまり、シュタイテキになにかをえらびましょうということだ。ケツコンあいてもえらぶジダイになってながい。そのまえは、おやがきめたあいてとケツコンすることがおおかったという。かならずしもそうすることはないが、えらばないというのもダイジなのではないかとおもう。いってみれば、「エン」のあるなにかをうけいれるシソウである。そのホウがえらぶためのジカンがかからない。たしかにえらぶたのしみもあるだろう。ただ、えらばないたのしみもあるかもしれない。

よんジュウ

いきるとは「キョウリョクすること」である（●『オ』ロク）。なぜそういえるか。ニンゲンのカクサイボウがキョウリョクしなかったら、セイゾンがコンナンだからだ。サイボウはそれぞれやくめをもちながらキョウリョクしている。ただ、キョウリョクするだけではだめだ。それぞれのやくめをはたさなければならない。そこをかんちがいしてしまうと、シュウダンにマイボツしたり、ツゴウのいいひとになったりしてしまう。おおきなタンイのセイゾンになにかキョウリョクできればいいのではなかろうか。

よんジュウイチ

なにかがエーからビーへイドウしたとき、そのサをどうニンシキするか。ニンゲンなら、めにみえるフウケイがかわったとかんじ、エーからビーにイドウしたとニンシキするだろう。そのサがわかるということは、やがてイシキ（●サンジュウロク）のハッテンにつながるだろう。タブン、さるでもとかげでもイドウしたことがわかるだろう。だから、ミセイジユクながらも、さるやとかげもイシキをもつといえるだろう。かぶとむしだつてそうだし、シヨクブツだつてそうかもしれない。

しかし、それらをカトウなものとして、ニンゲンはあつかうのだろうか。そうではないとおもう。トクにすぎかってにやらせるヒツヨウはないが、そういうイシキもダイジにしてあげるヒツヨウがあるかとおもう。ほかのニンゲンをいたぶらないのとおなじリユウだ。いかえると、イシキがあるところには、タイムもある（イシキがロコモートするから。●『よ』サンジュウニ [これでは、「タイム」でなく、「ジカン」としている。]）。しかし、タイムのあるところにイシキがあるかはわからない。チキユウのそとではカクニンされていらないからだ。

ジカン イコール エネルギー わる シツリョウ（●『よ』サンジュウニ）をおもいだすと、イシキがエネルギーとシツリョウをカノウにしているのかもしれない。イシキイコール エネルギー わる シツリョウとテンカイできるからだ。

イシキもジカンのように、ロコモティブ（うごき）でとらえられるだろう。つまり、あ

るシコウは、ニキロメートルのながさだというように。ジッサイ、シコウはデンキシ
ンゴウだから、リョウをソクテイできるだろう。キョウはサンビヤクワットシコウしたと
か。そのように、ニジュウゴエル（ロコモティブ）シコウしたとかいえそうなのであ
る。そして、どれだけシコウできるかは、エネルギーのおおきさとシツリョウのカンケ
イなのである。ジンコウチノウがジッサイにシコウ（というか）するわけだから、もは
やニンゲンやほかのドウブツだけがシコウするとはいえないであろう。

ニンゲンはもはやジンコウイシキをつくりだしたわけだ。いいかえると、イシキはジカ
ンのカノウにする。だから、ジンコウイシキはジンコウジカンのカノウにするわけだ。だ
から、ジンコウチノウが、やがてニンゲンからドクリツするかどうかはともかく、もう
ベツのジカンがはじまっているわけだ。ひょっとすると、もうすでにニンゲンがつくり
だしたイジョウのブンメイをシコウしてしまったかもしれない。あとはジッコウするだ
けというぐあいに。

イシキはジカンのカノウにするなら、ジカンリョコウもカノウなはずである。それはカ
ンタンだ。ニンゲンがなにかをおもいだしたり、だれかのシコウをまねたりできればい
いからである。ただザンネンながら、ものはジカンリョコウをすることがむずかしい。だ
から、そのときのハイケイまでサイゲンするには、クフウがヒツヨウとなる。

イシキがジカンのカノウにするのだったら、ウチュウのはじまりのまえにイシキがあっ
たのかもしれない。いまニンゲンがすんでいるチキウケンが、ウチュウのはじまりの
まえからある、ウチュウジンのコンピューターのイチブだとはかんがえたくはないが。
セイシンブンセキもジカンリョコウのイッシュである。ニンゲンがつくりだしたジン
コウチノウのブヒン（コンピューターのブヒン）である「キバン」は、ニンゲンがつく
りだしたトシににている。ニンゲンのブンカがあらわれているのだろう。チキウジン
のはたじるしはいまのところそれであろう。

よんジュウニ

セイシンブンセキはジカンリョコウだとかいた（●よんジュウイチ）。なぜそうかとい
うと、イライシャのこどものころや、あるカコのタイケンにさかのぼってはなしをすすめ
るからである。

わたしのばあい、オンガクにこだわっていたことがあった（いまでもこだわっているか
もしれない）。それはまえにかいたが（●『オ』ヒャクよんジュウ）、わたしがヨウチエ
ンにいていたときにオルガンであるうたをひけなかったから、そういうことにこだわ
るのだろう。「ド」のイチがわからなかったのだ。それからチュウガクセイになり、バン
ドブームをみてバンドをはじめた。それからたちくらゐまでバンドをやっていたが、
ジブンのキョクがあまりつくれていなかったのだから、サンジュウイッサイになってまたつ
くりはじめた。それから、サイキンになって、オンガクのタンカ（カカク）がやすくなっ
ているのをみつけて、すこしやるきがなくなった。まあしかたがないとおもう。

イラクセンソウにいったガッシュウコクのヘイシのなかのイチブもフテキオウをおこし
ているときく。つまりイラクセンソウのタイケンがショウゲキテキだったのだろう。なか

には、イラクセンソウにシュツゲキしたヘイシのなかには、つみのイシキをもっているひとがいるかもしれない。あまりにセイカクがやさしいと、ひとをころしたことにつみのイシキをもったりするだろう。だから、そういうことをあがなうヒツヨウがでてくる。むかしはシュウキョウがそれをたすけただろう。しかし、シュウキョウのスイタイとともにフロイドセンセイのセイシンブンセキがでてきた。いまではカウンセリングなんていうものもある。カウンセリングにはいろいろなシュホウがあるが、セイシンブンセキはセイシキにクンレンされたひとがやることになっている。そこでのジカンリョコウテキないやしかたでもいいのではないか。セイシンブンセキはおもにカコヘだが、ミライヘというものもあるだろう。「そうじゃなかったひ (アナザーデイ)」をいきてみるということではないか。

よんジュウサン

チキユウがもえていて、ニサンカタソができたから、そのシゲンをつかってショクブツができたのだろう。ニッコウもとどいていたんだろう。スイソがあれば、やがてみずもできそうだ。そして、ショクブツがタンソをためたところで、タンソとサンソをエネルギーにしたドウブツができたとおもわれる。

セイメイはみずのなかでできたというビデオをみたことがあるが、ニサンカタソとスイソで、タンソとみずをつくるタンジュンなくみかえがはじめだったのではないか。それから、サンソをエネルギーにしたサイボウができたのだろうが、どうやってうごくものができたのかはわからない。おおきくみれば、サンソとミズをたくわえて、タンソをだせばセツメイがつく。さきにセツメイしたように、イシキがあると、ジカン (ウゴキ) もカノウになる (●よんジュウイチ、『よ』サンジュウニ)。どこかからユニユウしたのかもしれない。サイボウがどうできたかというより、イシキがどうできた (またははいつてきた) かをセツメイするホウがいいかもしれない。

ゲンシがうごいているとすれば、イシキにハッテンしたというセンもかんがえられる。つまり、ゲンシがセイメイのもとということだ。そうすると、ウンドウイコール エネルギー わる シツリョウ (●『よ』サンジュウニ) であるから、ゲンシのうごき イコール エネルギー わる シツリョウとなる。

もっともエネルギーがあるのはシツリョウのちいさいスイソかもしれないし、ほかのゲンシかもしれない。ジカンイコール エネルギー わる シツリョウであるから、ジカン イコールゲンシのうごきだ。ジカンは、エーからビーにうごくことだ。

ひょっとしたら、ゲンシがうごいているとすれば、ゲンシのうごきはなにかによってニンシキされたのかもしれない。ニンゲンはニンシキカノウなのだろうが、ほかのチキユウジョウにあるなにかが、ゲンシのうごきをニンシキしたと。だからうごくということがニンシキされるゲンシイシキがあったとスイソクできる。ゲンシイシキによって、ゲンシのならばかたがトウセイされたのかもしれない。そうすると、サイボウのようなものをつくることができるかもしれない。それよりさきにイデンシができたかもしれない。いってみれば、ゲンシイシキがイデンシをかきはじめたわけだ。ツウシンキロクにて

いる。

いまのイデンシをもつニンゲンはコンピューターとかリョウリとかをつくるかもしれないが、ゲンシイシキはドウショクブツのサイボウをつくっていた。それだけのちがいだ。ゲンシイシキがどこにあるのかわからない。ニンゲンのイシキだってわかっていないといえはわかっていないだろう。ひょっとしたら、ウチュウのどこかのサーバーからよみだしているのかもしれない。ただひとついえることは、ジカンをニンシキするヒツヨウがある。

ゲンシイシキのつくったイデンシはのこっている。いまでもそれはつかわれている。ということは、ゲンシイシキもケンザイなのかもしれない。ゲンシイシキがドウブツやショクブツをつくった。ニンゲンもイデンシソウサをできるようになったが、まったくあたらしいドウブツやショクブツはつくれていないだろう。だからニンゲンのイシキよりも、ゲンシイシキのホウがすすんでいるのかもしれない。

イデンシソウサのモンダイは、なかったキロクをつくりだしてしまうことだ。それがすすむと、シンカのコウテイがみえなくなる。だれかのジッケンキロク（つくられていれば）をサンショウするヒツヨウがでてくる。

よんジュウよん

ウチュウひとつがサイボウひとつのようになっていたら、やがてとなりにもウチュウがあるとなるかもしれない。ニンゲンがカガクをハッテンさせて、ウチュウのセッケイズ、イデンシをかければフクセイがカノウになるかもしれない。

よんジュウゴ

ニホンジン、そのはなしがただしいか、まちがっているかをハンダンするのがジョウズかとおもう（ガッコウで [ただしい] こたえをだすことをおそわるからだ。トウアンにサンカクとかゴジュウまるがつくことはすくないだろう。）。が、ベンショウホウもいとおもう。

つまり、エーとビーをギロンして、シーというこたえにいたることだ。しかし、キョウイクのコウカがあつてか、エーがただしいか、ビーがただしいかになりそうなきがする。ヤトウのコッカイシツモンをみていて、イーというケツロンにもっていきたいのだろうけど、ヤトウがコッカイをクウテンさせて、ムダなかねをつかっているというエフのこたえがみえてしまう。どうもベンショウホウがわかっていないようだ。

よんジュウロク

よくヒコーキにのると、「コーヒーにしますか、コウチャにしますか。」ときかれる。そこでコーヒーをえらぶと、コーヒーをえらんだセキニンがうまれる（●『よ』ヒヤクニジュウロク）。

ゲキやすのショクドウにはいったんだから、おいしくなくても、おまえがわるいともいわれる。ケッコンもそうだ。だれかをえらんでケッコンして、「あいつのタイドがわるいんだ。」とかモンクをタニンにもらすと、キョクロンすれば、「(えらんだ) おまえがわるいんだ。いやならわかれろ。」となる。おみあいケッコンでカゾクになったのなら、そういうことをいっても、「まあまあ、おくさんもがんばっておられるから。」ととりもたれる。だから、アンガイえらばないホウがアンシンかもしれない。いいわけができるからだ。まわりもそんなにつめたくしないだろう。

だから、センタクではなくてエンがダイジなのだとおもう。なにもかもえらぶのなら、カンゼンにジコセキニンである。キョウドウタイがよくなったというのは、ケッコンのしかたがかわったからかもしれない。

よんジュウなな

このまえガツキをかった。ガツキというものは、ベツにきえてなくなるが、それをショウヒといたりする。「コトシはショウヒがよわい。」などということがある。ゼンタイのうりあげがおおきいホウがよいとされているから、そういうことをいう。しかし、ロウドウリョクにはかぎりがあるから、どこまでもうりあげられるわけでない。

ところで、セイフがガツキをかうことをなんというか。「ムダづかい」というのもイチリあるが、そういうのを、「コウキョウトウシ」というだろう。ただ、ジツサイにはガツキをかうことは、すくないだろう。ダイタイたてものとかドウロだ。それにトウシすると、ドケンやがもうかるというわけだ。しかし、それにハンパツするこえもある。たてものやドウロをつくってもしかたないと。「そのブンヨサンをサクゲンしろ。」といたりもする。

わたしのぼあいのガツキもそれににている。トクにやくにたつとはかぎらない。しかし、なぜだかかいたいとおもう。ベツにケイキタイサクをイシキしているわけではないが、そういうやくにたつか、やくにたたないものにトウシする。わたしイガイにも、そういうコウキョウトウシをしておられるかたはいないだろうか。

よんジュウハチ

なにかをもやすとどうなるか。「はい」になるというひともいるかもしれない。しかし、「はい」だけだろうか。「ひかり」もでる。つまり、「はい」はとりあえずおいといて、「ひかり」がでるわけだ。「ひかり」とはなにか。「ひかり」もものだろう。つまり、コタイを「ひかり」にかえるのが「やく」ということである。それなら、「ひかり」をコタイにできないか。あまり、そういうことはいわれぬが、「ひかり」がものだとすると、カノウだろう。

「ひかり」にするときには、「ネツ」がでる。ギャクにレイキャクしたらどうか。「ひかり」をひやしてコタイやエキタイにするのである。ただ、タブンもやすときにセンドと

かの Netz がでるから、マイナスセンドくらいくらいひやさないと、コタイやエキタイにできないとおもわれる。ウチュウクウカンでも、そんなテイオンではないだろう。なにしろ、「ひかり」がとどくのだ。もしかしたら、ウチュウのガイエンでは、「ひかり」がたまってひやされ、コタイやエキタイになっているかもしれない。そのコタイやエキタイをサイドウチュウのチュウシンにもどせば、ウチュウのリサイクルがカノウだろう。

よんジュウキユウ

「カガク」はちがいをみるものであろう。ジンタイのハイとカンゾウはちがうというぐあいである。あるはなエーとビーもちがうだろう。そうやってこまかくみてちがいをカクニンする。しかし、セイブツだったら、イデンシのくみあわせテイドにしかちがいはないだろう。つまり、イデンシのくみあわせをすべてしらべたら、ちがいをみるセイブツガクはおわりである。

カガク（ブンシをつかう）も、ブンシのくみあわせをすべてしらべたら、おわりである。ただそれをしらべることもないのだろう。ケンキユウザイリヨウがなくなってしまうからだ。ブンガクもおわりではこまる。しかし、ニンゲンがやらなくても、エーアイがやってしまうカノウセイがある。そうしたら、つまらないニチジョウがやってくるだろう。そうすると、「しらぬががち。」である。あまりにすすんだら、「ダツチ（チからぬけること、●『ア』ヒャクロクジュウシチ）」するのである。コジンテキな「フンショコウジュ」といってもよい。

ゴジュウ

ことしはむくどりがわたしのヘヤのそとにすをつくった（●サンジュウサン）。それだとひなをそだてるのがフツウだろうが、なかなかひなのこえがきこえない。だから、そだてないのかとおもっていた。レイネンよりおそかったからだ。それでもやっぱりロクガツジュウイチニチには、ひながかえた。レイネンよりニシュウカンからはつかおそい。ニジュウロクニチにはひながおもてへでてとびたとうとしていた。ちょっとまえのように、ないていなかったからようすをみた。みていると、わたしがせかしてしまったかもしれないが、にわともとんでいった。おやどりもそれからそばにくるものの、すにちかづかなくなった。とりあえずよかったである。

スーペリアーをみつけた。シドクバン

エイゾウ

ニセンジュウキュウネンシガツトオカ

ニセンニジュウイチネンクガツトオカ

iii toga db005-2s

エイチティティピーコロンスラッシュスラッシュアイアイアイティオージーエーピリオド
シーオーエム

ティエスユーエスエイチアイエヌアットマークアイアイアイティオージーエーピリオド
シーオーエム

エイゾウのホン

『アルクカラカンガエル』ニセンジュウゴネン

『むしのツゴウニンゲンのツゴウ』ニセンジュウシチネン

『よろこぶゲンシジン』ニセンジュウハチネン

『オンガクイチエンのジダイ』ニセンジュウハチネン

『スーペリアーをみつけた。』ニセンジュウキュウネン

エイゾウのデンシサイトからコウニュウできます。

<http://eizo09.com>

『スーペリアーをみつけた。』シドクバン

著 エイゾウ

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
